

# 『知的障がい支援学校における農業学習と キャリア形成の力の把握に関する実践的研究』

学籍番号 219501

氏名 上西 大輔

主指導教員 正井 隆晶

副指導教員 岩崎 弘

## 1. 研究の背景と目的

特別支援学校における農業学習は、作業学習の一つとして位置づけられ、多くの特別支援学校で取り組まれている。作業学習は、戦後まもない時期に「生きる為に手に職を付ける為」に始まり、動植物を育てることや、もの作り等の作業を中心として現在まで取り組まれてきた。近年では職業的な技能や態度だけを学ぶのではなく、子どもの発達に応じた取り組みや子どもが主体的に学ぶことできるような工夫を通して、自己有用感を育み社会性等、将来の自立に向けた力を身につけられるような取り組みが行われている。また、これらは、キャリア教育の中で取り上げられている、ライフキャリアとしての子ども達に将来必要となる「力」でもあり、それらを育むことも、作業学習の目的の一つになっている。特に農業学習は、触る、観る、育てる、食べる等の五感を全て使うことを通して学ぶことや、子どもの実態に応じて、様々な教材を選択してそれらを柔軟に活用し、学習を展開することができ、子ども達が楽しく自己肯定感を高めながら活動を行なうことができる学習である。更に言及すると、農業学習では地域性に応じた活動も可能である。地域に関連の深い作物等、地域と連携した幅広い学習ができることも魅力の1つである。そして、近年は支援学校が農園や農業高校と合同で学習に取り組むなど、支援学校における農業学習により一層注目が高まっている。これらのことから、本研究では、知的障がい支援学校における農業学習とキャリア形成とをより結びつけていくことをテーマとし、知的障がい支援学校におけるキャリア形成の力の把握を、農業学習の年間の作付け計画や指導案等と結びつけた一体的なシステムの構築を検討した。

## 2. 学校実習における実践内容

発展課題実習Ⅲでは、基本学校実習ⅢおよびⅣでの成果と課題を元に、年間の作付け計画と作物毎の授業計画(専門的知識のマニュアルを含む)や指導案を連携させて表示すること、また、教員間での情報共有という面では、農業に関する専門的知識や生徒への支援方法、そして、キャリア形成の力についても共通理解が図れるような一体的なシステムの構築を検討した。

専門知識のマニュアルを含めた授業計画の共有については、他の担当教員からは、概ね必要であるという評価を得たが、共有の時期については、より早い段階、準備の段階から必要な事

柄から事前に共有される方が望ましいといった意見も寄せられた。また、マニュアルの内容面では、内容が複雑であると活用しづらいといった意見や、生徒一人ひとりへ対応する支援の工夫を盛り込むべきであるなどの意見も寄せられたため、共有の時期と内容の精選、そして、より生徒一人ひとりに対応した内容の検討が今後の課題だと考えた。指導略案にキャリア形成の力の評価項目欄を作成し、授業内で各教員に評価してもらったことについては、学習内容とキャリアの関連性を確認できたとの評価を得たが、課題としては、各教員の評価を共有し合う場の設定や、評価が集約されてレーダーチャート等に反映されるようなシステム等、評価を集約して共有・活用していくシステムの検討が挙げられた。

発展課題実習IVでは、①キャリアの力の把握のための具体的な内容や項目について、特に、盛岡峰南高等支援学校のキャリアマトリックスを参考にマトリックスを作成すると共に、指導案等に生かしていくこと、②年間指導計画・作付け計画からリンクされた専門知識のマニュアルを含めた授業計画や指導案等が連動して示され、事前に教員間で共有されるシステムのひな形を構築することを目標として取り組んだ。キャリアにおける評価においては、年間あるいは卒業時を見越した長期的に評価する項目と、授業や単元ごとに評価する項目があることに気づくことができた。例えば、長期的な評価において授業準備や片付けを協力して毎回の授業で行なうことが身に付くことができたか。短期的な評価においては、それぞれの作物における播種や収穫方法、それぞれに必要な道具を適切に使用することができたか等である。これらを総合的に評価することによって、生徒にどのようなキャリアが身に付いたか等は、生徒のキャリア形成の把握につながり、さらに生徒自身の課題も見えてくると考えられた。

### 3. 成果と課題

成果と課題は、①年間の栽培計画、②マニュアル、③キャリアマトリックス、④指導案の工夫、の4点でそれぞれに集約できた。①年間の栽培計画については、年間の授業を計画するにはどのようなものが栽培できる時期であるか、播種、定植、収穫等の目安にすることができて有効と思われるとの評価を得た。ただし、実際の活用にあたっては、播種等の作業可能期間の幅を示すような表にすることで、更に活用しやすくなるといった意見もあった。②マニュアルについては、農園芸の授業を新任の教員が授業を受け持つこともあるため、そういった時もマニュアルがあると参考になり、また、マニュアルを基礎とした授業作りに役立つとの評価を得た。③キャリアマトリックスについては、キャリア形成に必要とされることに加えて社会性や働くことの基本的なことがまとめられていて、生徒に応じた活用ができるとの評価を得た。ただし、将来、働く為に大切なことにおいては具体性があると良いとの意見もあった。④指導案の工夫については、キャリアの視点を入れて評価することは、授業での取り組みとキャリアの方向性が概ね一致しており、生徒にどのような力がついたかや、生徒が必要としている力の把握、また生徒の実態把握にも役立つことができるとの評価を得た。ただし、評価に関しては、発達段階が高いグループではグループやペアで作業をしている時間を利用して教員が評価を記録することができるものの、発達段階が低い生徒においては個別的な支援の必要性が高くなることから作業中や授業内での評価が難しくなることが課題との意見があった。